

館山海上技術学校マリンセミナー開催

7月30・31日 全海運と関東船対協協賛、総連合会協力

全国海運組合連合会と関東地区船員対策協議会が協賛、日本内航海運組合総連合会が協力する国立館山海上技術学校の夏休み恒例のマリンセミナーが7月30日、31日の両日同校で、奥村恭史福寿船舶社長を講師に迎え開催された。

この行事は、夏休み期間中に生徒の保護者が同校に泊まりがけで、練習船による海上実習を始め各種実習、座学などを体験するもの。保護者達にとって、自らが体験することで生徒との親子関係を深め合い、日頃接することの少ない保護者同士の親睦を図り、学校の教育現場を理解することが出来ると好評。このセミナーには毎年、同校卒業生の採用企業や内航海運で働く海上技術学校卒業生を講師に迎え、保護者達の知らない内航海運の現状や船員生活・労働環境などをテーマに講演している。今回の参加者は例年の倍を超える55名と盛況だった。

今回は中島繁全海運専務理事、榎本成男関東地区船員対策協議会会長（関東沿海海運組合理事長、榎本回漕店社長）、畔柳健彦総連合会広報室副部長が出席。講演会では奥村氏が、①内航海運の概況、内航船舶の紹介、船員の仕事・船内生活 ②船員の職場環境や役割 ③新卒者の状況や教育などの課題 ④それらを踏まえた保護者へのお願い、などについてわかりやすく説明した。講演後は奥村、榎本両氏と保護者達が卒業後に乗船する内航船や船員生活について、熱心な質疑応答を交わし盛り上がった。

その後の懇親バーベキューパーティーの会場でも保護者たちは、両氏を囲んで生徒達の将来を託す内航海運と船員教育について語り合い、有意義なときを過ごした。



奥村氏（上）と榎本氏

講演会



懇親バーベキューパーティー



乾杯の発声は澤田茂一校長

